

ボリビアからの転入生を交えて国際理解の場を設けました。

吉野町立吉野北小学校

利用セット「中南米セット 小学校高学年向け」

平成 30 年度 1 学期(平成 30 年 5 月 22 日～7 月 10 日)

吉野北小学校の車谷由記子先生に伺いました。

Q 学校図書館セット貸出しを申し込まれた理由を教えてください。

A 本校には、4年前にボリビアから転入してきた児童がいます。転入当初は全く日本語がわからず泣いてばかりいた彼女も6年生となり、日本語がとても上手になりました。しかし、日本語指導の先生とスペイン語で生き活きと会話する姿を見ているうちに、彼女自身の心の安らぎやアイデンティティーの確立への手助けになればいいと思い申し込みました。

Q どのように活用されましたか？

A 全校児童を対象に道徳の時間として位置づけ国際理解の単元として扱いました。また、廊下の一角に面展示を置いて絵本コーナーを常設しています。その企画展の一つとして取り上げました。

Q どのような点を工夫されましたか？

A 道徳の授業では、

①『La otra orilla(邦題:むこう岸には)』を、ボリビア出身の児童による原書の読み聞かせと対になるように図書ボランティア「おはなしらんど カンプリア」の方に邦訳書を読んでいただきました。



②ボリビア出身の児童が、本校に日本語支援で来ていただいている吉野町地域おこし協力隊隊員の協力を得て電子黒板を用いてインターネットでボリビアの文化(祭りの様子)を紹介しました。また、自宅からボリビアの楽器(サンポーニャ)を持参し見せてくれました。

③地域に住むケーナ(南米の楽器)奏者の方がサンポーニャの音を聞かせてくださったあと、ケーナの紹介と演奏をしてくださいました。また、地域おこし協力隊隊員の夫(ベネズエラ出身)にもギター演奏で加わっていただき、南米を代表する曲『El Cóndor Pasa(コンドルは飛んでいく)』を聞かせていただきました。



展示では、原書と邦訳書が隣同士になるように面展示を行いました。

ボリビアからの転入生を交えて国際理解の場を設けました。

国際子ども図書館学校図書館セット貸出し 活用事例



校内での展示の様子



ボリビア出身の児童と吉野町地域おこし協力隊員の方によるボリビアの文化紹介

Q 上記を実施する中で、苦労した点がありますか？

A 道徳の授業については、たくさんの方が関わってくださることになり、内容としてはとても充実したものになりましたが、参加者が全員そろって打ち合わせ・リハーサルをする時間が取れなかったのが残念です。

Q 子どもたちの反応はいかがでしたか？

A 1年生の児童が授業後の感想の話し合いの中で(ボリビア出身の児童のことを)「お姉ちゃんかっこいい。」と言い、同級生は改めてボリビアをはじめとする中南米の国、そして世界の国々へと視点を広げることができたと作文に記していました。

ボランティアの方々は、子どもたちにとって知らない言語と出会う素晴らしい機会になったのではないかとおっしゃってくれていました。

Q セット貸出しを利用する学校にアドバイスがあればお願いします。

A 学校の中だけでなく地域の人を巻き込んでいくと楽しいです。新たな発見や出会いがあります。